

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

考えることの①**基本**は、疑問をもつことにある。

私たちは、子どもの頃から絶えずいろんなことに疑問をもち、あれこれ考えながら過ごしてきたはずである。

遊ぶ際にも、いろんな疑問が頭に浮かび、あれこれ考えたのではないか。A、

を上手に回すにはどうしたらいいんだろう、どうしたらもつと速く走れるようになるだろうか、どうしたらもつとボールを遠くまで投げられるだろうか、変化球はどうやって投げるんだろう、サッカーボールのキック力を高めるにはどうしたらいいんだろう、どうしたらドリブルで

相手をかわせるだろうか……。

絵本を見るときなども、なんでクマさんが泣いているんだろう、どうしてこの子は意地悪をするんだろう、この子はどこに行くんだろう。

字は読めないけど何て書いてあるんだろう、この先どうなっていくんだろう……。そんなふうに、さまざまな疑問をもちながら楽しんだのではないか。

どうしたら誰々ちゃんみたいに自分で本を読めるようになるんだろう、といった疑問を抱くこともあったかもしれない。

勉強に関してもいろいろ疑問に思い、考え込むことがあっただろう。この漢字は何て読むんだろう、この熟語の意味がわからないなあ、マ

イナスを引くってどういうことなんだろう、なんで3分の1で割ると3倍になるんだろう、この公式はどういう意味なんだろう、なんで川を

ダムでせき止めるんだろう、あんなに強そうな恐竜がなんで絶滅したんだろう……。勉強するたびにありとあらゆる疑問が湧いたはずだ。

とくに勉強のように構えなくても、日常生活においても、月はどうして動いているんだろう、なんで田舎に行くとき星がいっぱいになるんだ

ろう、池にいるカモは何を食べてるんだろう、鳥は自分の種の鳴き方をどうやって覚えるんだろう、ツバメは毎年同じ②場所②に巣をつくるの

かな、犬の寿命はどのくらいなんだろう、食べられる野草はどうやって見分けるんだろう、なんで地面を掘ると粘土が出てくるんだろう、な

んで神社で焚火をしちやいけないんだろう、どうして児童公園でボール遊びをしちやいけないんだろう、なんであそここの川に入って遊んじゃ

いけないんだろう……。そんな具合に、ちよつとしたきっかけでいろんな疑問が湧いたのではないだろうか。

そうした疑問が湧いたとき、親や先生など大人に教えてもらったり、図鑑や参考書で調べたりして、何とか疑問が解消することもあれば、

よくわからないままに時が過ぎ、いつの間にか忘れてしまったこともあっただろう。でも、生きていれば絶えずいろんな疑問が湧くものであ

る。

B、子どもの頃と違って、大人になってくると、情性で動くことが多くなるのか、よくわからないことがあってもいちいち気にならな

くなってくる。たとえば、理由がよくわからない規則があっても、なんでみんながそうするのかよくわからなくても、

「普通そうでしょ」

「そういうものだよ」

などと言われると、③「そんなものかもしれない」と納得してしまう。

それでべつに構わないこともあるものの、ときにはきちんと疑問に直面し、自分の頭で考えることも大切なのではないか。考えることで新

たな気づきが生じることもあるし、何といっても思考の鍛錬になり、考えることに慣れていく。

思考④停止を脱するには、ものごとを複眼的にみる姿勢をもつことが大事である。ひとつの視点に凝り固まらずに、別の視点からどのよう

にみえるのかに想像力を働かす。そのためにも、いろんな考え方、いろんな立場の人の意見や感受性に触れるようにすることが大切となる。

たとえば、このところよく話題になるコロナ対策にしても、マスクを外すべきか、マスクをするべきかといった議論がある。⑤海外では外

しているのに5月に日本で開催されるG7でマスクをするのはみつともないと政治家が言ったという報道もあるが、そんな理由で外すのはど

うなのかと思う。マスクをしていることで小さな子どもたちの表情認知の能力発達に遅れがみられると言われれば、たしかにそうかもしれない

と思う。でも、今まだ感染者が非常に多いのに、マスクなしにするのは⑥危険だと言われると、それもそうだと思う。

ワクチンにしても、ワクチンをいくら打ってもコロナ感染者は増えるばかりの現状に対して、ワクチンで感染は防げなくても重症化は防

げると聞くと、それなら有効なんだなと思う。でも、ワクチンで症状が出にくくなると、ウイルスに感染してもわからずに人に感染してしまう危険もあるから、知らないうちに高齢者施設にウイルスをもちこむ⑦リスクもあると言われると、たしかにそうかもしれないと思う。

そんなふうに、あれこれ考えてみることを楽しんでみたらどうだろう。すぐに答えが出ないとイライラするという人もいると思うが、それ

こそ思考停止の徴候なのではないかと疑ってみる必要があるかもしれない。

世の中の多くの問題に対しては、そう簡単に答えは見つからない。C 専門家同士でも意見が対立したりするのである。

簡単に答えが出ないことにイライラしたりせずに、あれこれ考えるのを楽しむ姿勢が大切なのではないか。それこそが⑧思考停止を脱するた

めの第一歩と言ってよいだろう。 （榎本博明『思考停止という病理 もはや「お任せ」の姿勢は通用しない』による）

（注1） 情性——それまで続いてきた習慣や勢い。 （注2） 鍛錬——厳しい修練などを積み、技能や心身を強くきたえること。

（注3） G7——日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダの7か国のこと。これらの国と、ヨーロッパ諸国の連合

であるEUの首脳らによるG7サミットという国際会議が、二〇二三年五月に広島で開かれた。

（注4） 徴候——物事が起こるしるし、前ぶれ。

問1 A C にあてはまる言葉を、次のア～オから一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア あるいは イ たとえば ウ だからこそ エ ところが オ つまり

問2 ——線部①「基本」の同義語（似た意味の言葉）として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 原本 イ 根底 ウ 根気 エ 本心

